

AGU NEWS No.45

青山学院大学

AGUニュース第45号
[2009年1月～3月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



往路スタート読売新聞社前

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

33年ぶりの箱根路で最後までつないだ“伝統のタスキ” ここに青山学院大学の新しい第一歩が刻まれました

—箱根駅伝<第85回東京箱根間往復大学駅伝競走>—

青山学院大学総合研究所創立20周年を迎えて
文部科学省の2008年度「大学教育改革支援」事業に
本学の取り組み8件が採択

TOPICS

2008年度司法試験合格者による座談会開催
男子バスケットボール部、全日本学生選手権大会で第3位を死守

報告・お知らせ

読書教養講座 井上ひさし氏公開授業
青山MBA特別フォーラム開催
2008年度ペアレンツウィークエンド実施状況報告

誌上公開講座

テーマ別科目 言葉の技能
「変動するアメリカ」

INFORMATION

春期休業中の窓口案内
青山学院 EVERGREEN 21 募金

特集

青山学院大学総合研究所 創立20周年を迎えて

青山学院大学総合研究所は「青山学院大学における教育・研究との有機的な関係のもとに広く学術を統合し、社会と学術文化の進展に寄与する」という目的のもと1988年9月に設置され、現在も精力的かつ多彩な研究活動を展開しています。今回は、創立20周年を迎えた総合研究所で第5代所長を務められた半田正夫院長代行・常務理事に就任当時を振り返っていただくとともに、第7代所長佐伯胖教授と第8代所長（現所長）秋元実治教授のお二人に対談していただき、総合研究所の現在の取り組みや今後の課題と展望などについて語っていただきました。

対談

20年の実績を未来へつなぐ—— 学術文化の次代を担う総合研究所は、 新たな可能性を追求し続けます。

学術研究の可能性を広げた 2003年の体制改革

秋元 佐伯先生が所長を務められていた2003年に、総合研究所は組織の大幅な改編を行いました。当研究所にとっては、前例のない一大改革となりましたが、先生はどのようなお考えで取り組まれたのでしょうか。

佐伯 私は、元所長で当時の学長である半田先生の要請を受け、青山学院大学総合研究所所長に就任しました。学部独自の研究活動が実質的に基本となっていた「研究センター制」を廃止し、複数の学術の横断を可能とし、よりフレキシブルにテーマを追究できる「プロジェクト制」へと体制を切り替えたのは、“学際的な環境を整えるために組織を一新したい”という先生の志を具体化したものだったのです。

秋元 私が佐伯先生から所長を引き継いだ時点で総合研究所に備わっていた、自由で活発な気質は、まさにその成果の表れなのでしょう。近年、優れたプロジェクトが数多く生み出されているのも、学部の枠組にとらわれずに研究に取り組める環境があるからこそと感じています。

佐伯 組織体系の改編だけでなく、研究テーマと予算の設定方法を改善したことも、研究成果が上がっている大きな要因といえます。従来の制度では、各研究センターに予算がほぼ均等に割り当てられ、優れたアイデアがあっても、十分な規

模でプロジェクトを展開することができませんでした。しかし現行の制度では、幅広く募集されたプロジェクトから運営委員会が優れたものを選び、内容に応じて適切な予算額を決めているため、精選された質の高い研究に合理的に予算を割くことができます。

重要かつ雄大なテーマに挑む 創立20周年記念特別研究プロジェクト

秋元 総合研究所では、2008年度には通常のプロジェクトに加えて『創立20周年記念特別研究プロジェクト』を募集しました。私を含めた運営委員会は、「20年後までつながる“habitable zone”（住み心地のよい領域）にある地球」というコンセプトのもとで審査に臨みました。その結果採択を受けたのは、文学部の平田雅博教授、北村文昭教授、佐藤泉教授らによる『戦争記憶の検証と平和概念の再構築』、文学部重野純教授、理工学部福岡伸一教授、柳原敏夫弁護士による『科学技術の発展と心的機能から探る安全と危険メカニズムに関する総合研究』の2件です。

佐伯 2件ともに研究者同士のコラボレーションが可能にした、個性あるプロジェクトであると思います。また、内容が優れているだけでなく、人々の関心を引きつける魅力を大いに備えていると感じました。

学際性を追求する総合研究所のさらなる発展を願っています。



総合研究所元所長（1998年10月～2000年3月）
院長代行・常務理事
半田 正夫

私が所長に着任した1998年当時の総合研究所は、学部から派生した7つの研究センターがそれぞれの世界観をもって研究に取り組む感が強く、本来の目的である“学術の統合”という面では、まだまだ発展途上の段階にありました。私は、そのような状況を何とか改善したいと考え、組織体系の根本的な見直しを視野に入れた改革の方向性を模索していました。ところが、改革が構想段階のうちに学長に就任することが決まり、その後は、青山学院大学全体を統べる立場から、後任の所長を務められた先生方を支援し、改革の経緯を見守ってきました。そして、佐伯胖教授が所長を務められていた2003年に、

学術間の自由な横断を可能にする新体制を実現し、それが現在にまで至る活気ある流れを生み出しているのです。

社会のグローバル化とともに学術研究へのニーズが多様化している現在、異なった専門分野をもつ研究者同士の協働は、極めて重要といえます。学際的な研究の先端を担う総合研究所には、既成の考え方にとらわれない自由な発想のもとで、さらに多くの優れた研究成果が生み出されることを期待しています。そして、その成果を社会に向け広く発信し、総合研究所の活動が多くのの人々に理解され、支持されることを願っています。



総合研究所前所長（2001年4月～2005年3月）
社会情報学部社会情報学科 教授
佐伯 胖

秋元 そうですね。20周年を記念するにふさわしい“雄大さ”を第一のポイントとして選考しました。『戦争記憶の検証と平和概念の再構築』は、歴史の流れとともに、戦争の記憶が人々によってどのように語られ整理されてきたかを検証し、平和的対話の可能性を考察するという、まさに人類にとって恒久的な課題に取り組むプロジェクトです。一方の『科学技術の発展と心的機能から探る安全と危険メカニズムに関する総合研究』は、科学技術の進展の副作用として発生している、人類の能力低下がテーマです。身体能力やコミュニケーション能力、五感などの低下に伴う危険性について、認知心理学、生命科学、法学など多様な領域からアプローチします。研究そのものの社会的意義だけでなく、学際的研究の体現という観点から見ても、非常に価値のある取り組みであると感じています。

研究活動をさらに推進させ 学術による社会貢献を目指す

佐伯 総合研究所では、2003年の改革以降も、2005年にIT教育の拠点「eラーニング人材育成研究センター（eLPCO）」を立ち上げるなど、環境はますます充実していますね。

秋元 当研究所では、現在も優れたプロジェクトが次々と始動しています。現状を継続・発展させ、これからも活発な研究活動を展開していくことを第一に考えています。しかし一方で、



総合研究所所長（2005年4月～）
文学部英米文学科 教授
秋元 実治

社会一般へ向けた「成果の発信」という面では、残念ながら十分に成されているとはいえません。私はこの課題を克服する一歩として、早期に総合研究所の出版会を設立することが必要であると考えています。

佐伯 課題といえば、私は所長在任中から、総合研究所をもっと自立した機関にしたいと考えていました。現在の総合研究所の研究者は、一部の学外から招いた研究者を除き、基本的に学部との兼任教員で構成されていますが、真の独立した研究機関となるためには、専属の研究者の登用が必要であると感じています。また、青山キャンパスの好立地を生かし、学外の人々に開かれた取り組みを立ち上げるのもおもしろいのではないと思っています。社会と学術文化に寄与するという、総合研究所の理念と照らし合わせても、大いに意義があるはずです。

秋元 なるほど。私も総合研究所の研究成果を教育成果にもつなげていきたいと考えています。先日行われた「総合研究所創立20周年記念講演会」には、多くの学部生の参加者があり、学生たちの強い意欲をうかがうことができました。現在の総合研究所は、教員の手で運営されていますが、学生が教員に企画を持ち寄るような機会もつくってみたいですね。今後も、ボーダーラインを設けず、さまざまな研究活動に取り組んでいきたいと考えています。是非ご注目ください。

文部科学省の2008年度 「大学教育改革支援」事業に 本学の取り組み8件が採択。

今号では
4件の取り組みを
紹介します。

大学組織としても各研究を全面的にバックアップしていきます。



総合文化政策学部総合文化政策学科 井口 典夫 教授

文部科学省「質の高い大学教育支援プログラム」に 総合文化政策学部の取り組み「都心の文化資源等を活かした知の創造と発信」が採択

「青山学院大学」の大きなメリットのひとつが、渋谷・青山に位置する“都心立地”です。とくに最先端のアートや文化資源に囲まれた、情報発信拠点とも呼べる環境は、学生たちにとって創造の現場とマネジメントの場を実体験できる貴重な“学び舎”となっています。この環境を有効活用するために、総合文化政策学部では、学外の文化機関等と教員とが実施している共同プロジェクトに学生を参加させる、新しい体験型教育プログラム「ラボ・アトリエ実習」を設けています。元来、さまざまな分野のプロフェッショナルである本学部の教授陣が、学外で実際に進行中のプロジェクト現場に学生を参加させ、刺激的な学びを

体感してもらうことが目的です。教員の真剣勝負の現場に、“プロ”の自覚を持った学生を迎え入れ、“仲間”としてプロジェクトの成功を目指します。

この「ラボ・アトリエ実習」が下地となった取り組みが、文部科学省「質の高い大学教育支援プログラム」に採択されました。この取り組みの大きな“柱”は2本です。まずは本学の立地条件を活かした先端的かつ臨場感あふれる「魅力あるプロジェクトの提供」。具体的には“平和活動”“アートマネジメント”“環境創造”“映像等企画制作”分野へのアプローチが中心となりますが、単独で動くだけではなく、国連大学、トーキョーワンダーサイト、自治体、NHK等との連

携も視野に入れ、学生の学習意欲を刺激するような展開を考えています。そして、もうひとつの柱が「学習参加システムの整備」。これは各プロジェクトに学生がスムーズに参加し、適合するための“事前準備プログラム”とも呼べるものです。たとえ学生であってもプロジェクトに参加するからには、高いレベルの能力が求められます。そのため実践を踏まえた事前準備・事前学習への配慮が必要となるのです。

以上、“より質の高い学びのための、実践的な事前準備を行う”ことで、学生の意欲を向上させ、青山学院ならではの教育を推進していくつもりです。どうぞプロジェクトの進行にご注目ください。



理工学部情報テクノロジー学科 稲積 宏誠 教授

文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に、 全学部を対象とした取り組み「学士力としての論理的文章作成能力育成」が採択

最近の大学生は、全体的に文章理解・作成能力が低下傾向にあります。特にレポートや論文など、客観的・論理的にまとめる文章が苦手なようで、4年生の卒論の段階になって、文章の書き方を指導することもしばしば起こります。こうした文章作成能力は、実習・演習によるトレーニングが必須ですが、そこまでの対応を教員に任せて実施するのは困難です。そこで、文章添削に匹敵する機能を、可能な限り自動化することによって、演習環境を構築し、学生たちの文章理解・作成能力の向上に寄与することが、本取り組みの大きな目的です。

今回 のサブタイトルは、「言語処理とIT技術を活用した教育システムによる

実効的教育の実現」です。人が用いる言語を扱う「自然言語処理」は、従来からAI分野における究極の研究対象でした。専門家の間では、コンピュータによって「あらゆる文章表現を解析し、文章の正確な理解と表現を実現する」ために、研究が続けられています。そのような専門家にとっては、まだまだ課題は残されています。しかし、『大学生が、卒論やレポート作成時に、正しい文章を書くために必要となる情報を活用する』という目的に立てば、現段階でも有用な研究成果は数多く存在しています。この点に注目したのが、今回の企画立案のきっかけです。

教育 システムは、「e-Learning」と「自然言語処理」の技術を融合させ、「文

章理解支援システム」「文章作成支援システム」「問題自動生成支援システム」から構成されます。各システムを有効活用した演習を通じて、自ら考えながら客観的・論理的な文章理解・作成能力の向上を目指します。具体的には、学習すべき内容のレベルに応じた3つのコース(ベーシック・カスタム・アドバンス)によって段階的に学べる環境を用意します。まず、自学自習教材として全学に提供し、基本を担保したうえで、各学部の教育課程のなかで、広く活用できる環境を構築する予定です。理工系の研究開発に基づくプログラムとはいえ、全学的な取り組みとしての展開を目指していますので、多くの関係者、関係機関等のご協力をお願いいたします。

副学長 岡田 昌志



大学教育改革を目的とした2008年度の文部科学省の募集事業において、本学は12件申請し、そのうち10件がヒアリング以上にまで段階を進め、最終的に8件の取り組みが採択されました。8件のうち3件は他大学との連携による取り組みですが、単年度に8件採択を受けた結果は画期的なことであり、本学の教育力の高さを示すもので、喜ばしいことだと考えています。

ここで強調させていただきたいのは、採択された取り組みの一件一件が、申請に合わせて急仕上げで考えられたものではなく、長年にわたって研究・教育活動を積み重ねてきた成果である点です。だからこそ説得力にも実現性にも優れ、文部科学省に認められたのでしょう。これからは、採択事業を形にしていけることが我々の使命。研究・教育活動の“核”は、各担当の先生方が担うこととなりますが、青山学院大学としても、それぞれの取り組みに対し全面的にバックアップし、事業を成功に導きたいと考えています。今後の取り組みにぜひご注目ください。

ヒューマン・イノベーション研究センター 玉木 欽也 副所長



文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に、ヒューマン・イノベーション研究センターの取り組みが採択

本学のeラーニングへの取り組みを振り返ると、授業設計やコンテンツ制作などに着手したのが約10年前。その後、対面授業にeラーニングの良さを組み合わせたブレンディッドラーニングの考え方が生まれました。さらにeラーニングのメリットが認められると、eラーニングを持続的に運営するために必要なeラーニング専門家の育成が求められるようになりました。これらのニーズに対して、本学では、2006年度より学部生対象としては日本初の「eラーニング専門家育成プログラム」がスタートし大きな成果を上げています。

こうしてeラーニングによる教育システムは充実し、更なる普及を目指す段階に入ろうとしています。そこで問題とさ

れてきたのが、「eラーニングの学びを受講者がどれだけ最後までやり通せるか」という点です。いつでもどこでも学べるのがeラーニングの大きな利点である反面、自分自身の“やる気”に大きく左右され、最後まで学習するモチベーションが続かないとの見方をされるようになりました。

そこで注目され始めたのが、eラーニングによる学習を支援する専門家です。オンラインコミュニケーションによって、学習者に的確なアドバイスを送りつつ、学習修了まで導くことが“オンライン学習支援者”の大きな役割となります。

今回、ヒューマン・イノベーション研究

センター(HiRC)が実施する「オンライン学習支援者育成プログラム」では、オンライン学習支援者を育成する候補として、豊富な知識を持ちながらも現役を退いた団塊世代の方や、バリバリと働く意志がありながら出産や育児などで離職を余儀なくされている主婦層をターゲットとしました。eラーニングとはいえ、人とのコミュニケーションが必要となるため、豊富な社会経験が必要と考えたからです。また文部科学省のプログラムに採択され、より計画性を持って事業に取り組むことになりました。取り組みの成果等は、HiRCのホームページ上で随時ご報告させていただきます。

ヒューマン・イノベーション研究センターH.P.「研究・外部資金」
<http://www.hirc.aoyama.ac.jp/research/rsc03.html>

社会情報学部社会情報学科 荻宿 俊文 教授



文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に、社会情報学部の取り組み「地域の教育力をイノベーションするワークショップデザイナー育成プログラム」が採択

子どもの教育の場として、「学校」と「家庭」に加え、「地域」が注目されています。地域教育の現状に目を向けると、児童館やミュージアム、あるいは放課後の小学校の教室等の施設開放など、子どもたちが集う“ハード面”は整いつつあるようです。しかし同時に、子どもたちを指導する立場の人材、いわば“ソフト面”の育成が大きな課題であることも見えてきました。本学社会情報学部が大阪大学とともに取り組む「地域の教育力をイノベーションするワークショップデザイナー育成プログラム」は、ワークショップ型の学びを通じて、子どもたちに“コミュニケーションの大切さ”を伝える“エキスパートの育成”が目的です。

学校教育と異なり、「地域教育」に求められるのは、“コミュニケーションの力”と“アイデア力(自分で考える力)”。そのためには、多くの人と交流できる場が必要です。そこでワークショップ型の学びを提供し、子どもたちが参加することに意義を見出せる環境を用意。そして人と一緒に過ごすことの楽しさを伝えるエキスパートとなるワークショップデザイナー(地域教育育成専門員)を育成し、子どもたちに集団活動における協調性の大切さを教えたいと考えています。また、文部科学省の募集事業名に「社会人の学び直しニーズ」とあるように、本取り組みにおいても、ワークショップデザイナーのターゲットとなる層を、ボランティア等で

地域教育の場で活動中の20代、子育てを通じて地域と関わっている30代・40代主婦、そして自分の経験を地域に生かそうと考えているアクティブシニア(60代～)に設定。ネットワーク環境があれば全国どこでも、いつでも学べる「eラーニング」による学習を提供する予定です。

子どもたちに“コミュニケーション”を教えるワークショップデザイナーは、自分自身に協調性がなければ難しい仕事です。しかし、それだけやりがいのある仕事でもあります。求められるのは「人に働きかける力」「人に共感できる力」「人と交流する“場”を築ける力」の3つの力。本学の学生、卒業生も含めて、興味のある方はぜひご参加ください。

2008年度司法試験合格の3名による座談会を開催。 法曹の道を歩み始める“決意”を聞く

2008年度の司法試験において、計15名の合格者を輩出した本学法務研究科（法科大学院）。青山学院の建学の精神とも通ずる「社会的に弱い立場の人たちに、やさしいまなざしを向ける法律家の育成を目指す」との理念が実を結んだ形です。今回は合格の夢をかなえた3名の院生が集まり、山崎敏彦法務研究科長の司会進行のもと、特別座談会を開催しました。

山崎 みなさん、司法試験合格おめでとうございます。野津さんは東大を出られた後、銀行在職中にハーバード大でも学ばれ、長い社会経験を積まれました。坂生さんも青学卒業後に1年間、地方公務員として勤務されています。そして碓氷さんは、高等部からずっと青山学院で過ごされました。そんな生活環境の異なるみなさんが、いつ法律に関心を持ち、法曹の道を歩むことになったのですか。

野津 私の大学受験は、もう30年以上前（笑）。そのころ法律関係の道は一切考えていませんでした。母がクリスチャンの影響か、漠然と「人の役に立ちたい」との思いを抱いていましたが、結局、幅広いことが学べそうな教養学部への進学を選んだのです。その後、銀行に入社した私は海外の大学へも留学し、「国際」と「証券」という、当時の銀行としては最先端と呼べる環境で働きました。その後、いろいろな部署を経験しましたが、あるとき「人の役に立つ仕事をしているか?」と疑問を抱いたとき、長い社会経験で知識が身についた「法律」に、強い興味を抱いている自分に気付いたのです。

坂生 国際政治経済学部出身の私は、法律にはあまり関心がありませんでした。大学時代は公務員になることを目指し、卒業後は愛知県庁に勤務。ただ公務員は想像していた以上に「組織」として仕事をするイメージが強く、もっと「個人」として働くことに憧れました。そして、公務員試験の勉強を通じて学んだ法律の分野に思い当たり、ちょうどロースクールが開設し始めた時期だったので、思い切って法曹を目指そうと考えたのです。

碓氷 法学部出身とはいえ、実は大学時代の自分にとって司法試験は高すぎるハードルだと思い、半分あきらめていました。それがちょうど4年生のときに新しい司法試験制度に変わり、法科大学院も開設され、「これは自分にとってチャンスかもしれない」と考えたのです。そして気持ちを一新して、もう一度真剣に法律を学ぶことを決意しました。そのため法学部出身ながら、大学院は既修ではなく、未修で受けることにしたのです。

山崎 では、司法試験合格という結果を出されたみなさんから見て、青山学院の法科大学院で学んだ印象はいかがですか。

碓氷 とにかく先生方の協力体制が充実していて、心強かったですね。正規の授業だけでなく、補習や時間外の質問にも快く応じていただきました。大学時代は所属したゼミの先生と親しくなるイメージですが、法科大学院では、ほとんどの先生方と密な関係を築くことができ、幅広い知識の習得につながったと思います。

野津 私にとっては3校目の“大学”ですが、確かに先生方と気軽に直接話せる距離感は、青学が一番でした。

坂生 少人数制だったので、先生との距離もそうですが、院生同士の交流も深まりました。社会人も多くいたので、いろいろな刺激を受けることもできましたね。

碓氷 そうですね。未修者が自分の力だけで、効率的に勉強を進めることは難しいと思います。多くの仲間たちと一緒に頑張れる環境があったことが、今回の合格につながった要因のひとつだと自分では考えています。

山崎 こうして司法試験に合格され、将来に向けて大きな希望を抱いているみなさんに、自分が理想とする法律家像、および具体的な夢や目標をお聞かせしたいと思います。

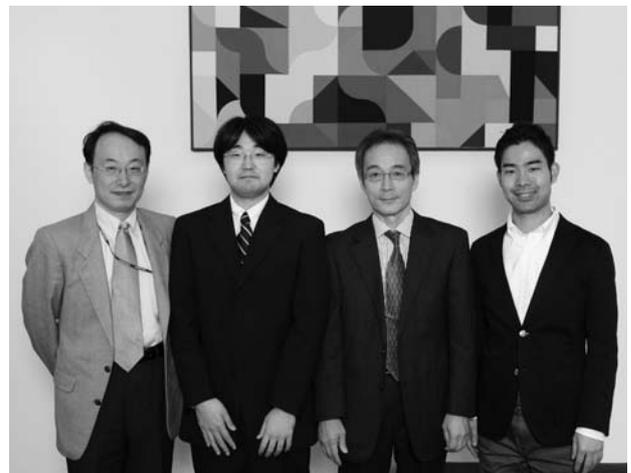
野津 私は島根県の田舎町の出身です。将来は地元で“町弁”になりたいと考えています。ただし人のつながりと同様に、「町づくり」の分野でも力になれるとうれしいですね。

坂生 私は地方公務員として多くの先輩方と一緒に働き、地方の現状を知ることができました。今後は弁護士として、地方の条例立案などに携わっていきたいです。

碓氷 弁護士法の第一条第一項に「弁護士は、基本的人権を擁護し、社会正義を実現することを使命とする」とあります。なかなか“使命”が法律で規定されている仕事は多くないので、弁護士という職業に誇りを持ちたいです。また、高度な専門的訴訟に関わりたいと思うと同時に、本当に法律を必要としている人々の身近な場所で働きたいという思いもあります。

山崎 みなさんのメッセージに、「町づくり」「立法」「人権」など、法律に関わる素敵なキーワードが並びました。青山学院の法科大学院で学ばれた方々の将来の目標に、このような言葉が並ぶことは、少し手前味噌ながら、我々の取り組みが間違っていなかった証ではないかと感じました。

みなさんにとって司法試験の合格は、ゴールではなくスタートです。これからも高い理想を持ち続け、ぜひ法曹の道で活躍してください。



写真左から
野津 孝義さん（東京大学教養学部／Harvard Univ. Master in Public Administration 出身）
碓氷 正志さん（青山学院大学法学部出身）
山崎 敏彦 法務研究科長
坂生 雄一さん（青山学院大学国際政治経済学部出身）

日本歌人クラブ主催の全日本ジュニア短歌大会で、 文学部日本文学科 日置 俊次ゼミの学生10名が入賞



文学部日本文学科
日置 俊次 教授

日本歌人クラブが主催する全日本ジュニア短歌大会は、短歌のコンクールでは、国内でも大きな大会のひとつ。そこで入賞したことで、学生たちも大いに「自信」を持ってもらいたいですね。

短歌の魅力は、“31文字だけで無限の世界を人に伝えられる”こと。例えば「春」という言葉を使うことで、他の季節も意識させるなど、すべてを言葉にしなくても読者に大きな世界を“感じさせる”ことができます。正に「言葉の不思議に触れられる文学」です。

今回は「秀作賞」を受賞した日本文学科3年生4人の作品と、受賞のコメントを紹介します。

*なお、今回登場の4名以外にも、4年生の岡田里華さんが「選者賞（古谷円賞）」、4年生の鍵和田昇君、菊地彬彦君、3年生の月野菜摘さん、三上一貴君が「佳作賞」、3年生の清水千晶さんが「奨励賞」をそれぞれ受賞しています。

窓という窓あけはなつわが家の夏を野良猫とおりぬけたり

(河本 桜)

まだ経験が浅く、実体験に基づくノンフィクションしか詠めません。でも今回の受賞を家族が喜んでくれ、短歌と出会えて本当によかったです。

五月晴れの天気予報すらくつがえす雨おとこの勝負に出向く

(宇賀神千春)

受賞作品は、ゼミの題詠で「5月」をテーマに詠んだものです。私自身が「晴れ女」なので、「雨おとこ」の勝負をイメージしました(笑)。

するするとしづかに無色の糸おちて五月の雨はこんなに優しい

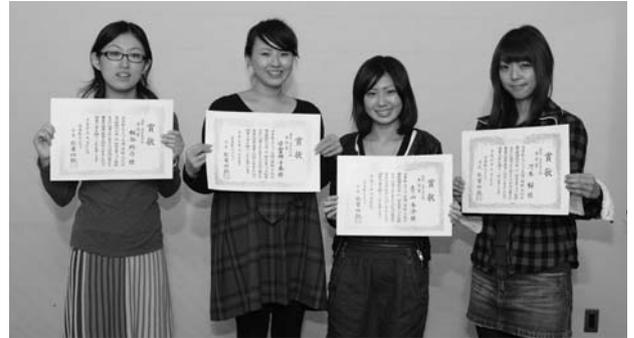
(青山香澄)

今回の受賞で、他人に評価されることの大切さを学びました。これを機会に、いろいろなコンクールにも積極的に挑戦しようと考えています。

若き日に指失った手を祖父は器用に使うぞ知らぬ顔で

(板谷絢乃)

お菓子職人で、昔機械に右手の指を3本切断された祖父の姿を31文字で表現しました。家族を詠んだ作品で賞をいただけてうれしいです。



写真左から 板谷さん、宇賀神さん、青山さん、河本さん

総合文化政策学部 沖本 幸子准教授の著書 『今様の時代～変容する宮廷芸能～』が、 「第一回日本古典文学学術賞」を受賞



総合文化政策学部
総合文化政策学科
沖本 幸子 准教授

「現代風」という意味を持つ「今様」は、平安時代に生まれた、当時の“流行歌”です。通常、文学に携わる立場の人間であれば、歌詞の解説などの研究に取り組むべきかもしれませんが。しかし私の場合は、今様がどのように歌われ、どのように享受されたかといった今様をめぐる状況に大きな興味を抱きました。そんな私の作品が「文学」と名の付く賞をいただいたことは、「大変ありがたい」とともに、「よろしいんですか?」との思いです。

もともと今様は、平安時代の庶民たちに歌われていた流行歌でした。院政期の貴族たちから見れば、庶民の流行歌など卑しいものであり、普通なら見向きもされないはず。ところが、その今様が、宮廷にまで入り込み、宴の席で“宴会芸”として親しまれたのです。とくに熱心だったのが、『梁塵秘抄(りょうじんひしょう)』という今様の歌謡集成まで編纂した後白河院で、喉をつぶしても今様を何日間

も歌い続け、今様を信仰の証にするなど、その熱狂ぶりは尋常ではなかったといいます。「そんな“時の権力者”さえも魅了する今様とは、一体どのようなものなんだろう?」と思ったのが、私が今様に興味を抱いたきっかけでした。

従来庶民に親しまれ、宮廷では宴会芸として歌われた今様は、堅苦しい伝統とは縁がなく、その時代に合わせて比較的自由に変化を重ねました。時代によって、あるいは場所や状況によって、そのときどきの人々の素直な興味がストレートに表現され、それが大きなエネルギーとなって歌われたのです。だからこそ庶民だけでなく貴族にも愛されたのでしょう。そんな日本芸能のひとつでもある「今様」に対し、文学的視点からは少し外れたところからアプローチを試みた私の著書ですが、「常識」から一歩離れ、いろいろなものを違った角度から見つめなおす姿勢は大切なことだと考えています。そこから今まで気付かなかった新しい発見が生まれるかもしれません。今様や研究に限らず、常識を疑い、人が見落としてきたものを見つめていくことの面白さと豊かさを学生たちに伝えられるといいですね。

内閣府主催の「日本・中国青年親善交流事業」に、村上 紫麻子さんが中国派遣団の一員として参加。日本文化の良さを中国に伝えました

面接や論文などの厳しい選考を経て「日本・中国青年親善交流事業」に参加しました。全国から選ばれた18歳から30歳までのさまざまな背景を持つ多彩なメンバーと国内研修も含め約1か月にわたる活動を共にしました。事業ではそれぞれに役割分担があり、私は「交



法学部法学科2年
村上 紫麻子さん

歓係」として中国の人たちに日本文化を伝える係を担当。小学校で紙芝居を見せたり、レセプションで、茶道、ソーラン節、マツケンサンバ(!)も披露しました。

ホームステイや現地大学生とのディスカッションを重ねる中で、中国の人々の勤勉さ、また大学生がもつ自分の将来への責任感の強さや、モチベーションの高さを知りました。

そのような姿に接して、これからの日本を担っていかねばならない自分たちの立場と責任の重さを再確認しました。

私 が今回、中国に行って強く感じたことは、マスメディアから知る情報と現地の実態との大きな「差」です。近年、反日感情の高まりを伝える報道が数多く見受けられますが、実際に自分の目で見た中国はとても素朴で、人々も温かでした。今後、マスメディアとどのように向き合っていくか疑問を感じた私は、帰国後に大学のゼミを決める際、「マスメディアと法」を選択。自分で学んでいきたいと思う分野を中国で見つけることができました。

帰国後 は、皇居で天皇后陛下に現地での経験をご報告することもでき、このような機会を与えてくださった方々、また現地で支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

「第7回学生起業家選手権」にて、国際政治経済学部 岩井ゼミのチームが優秀賞を受賞

2008年10月9日(木)、「第7回学生起業家選手権」の決勝が行われ、岩井千明ゼミの3年生6名のチームが優秀賞を受賞しました。この「学生起業家選手権」は、東京都および財団法人東京都中小企業振興公社が主催するビジネスプランのコンテストです。岩井ゼミのチームは、書類審査や代表者のペーパーテストなどによる予選を勝ち残り、プレゼンテーションによる決勝でも高い評価を獲得。その結果、136件あったエントリーから2件選ばれた優秀賞の一つに採択されました。

彼らが考案したのは、大学スポーツに関する動画を撮影し、それをインターネットで配信して広告収入を得る「大学スポーツチャンネル」という名のビジネスモデル。学生スポーツに特化したコンテンツを通じて、学生、選手の友人、親族などのコアな層だけでなく、一般のスポーツファンに幅広く訴求できることが、プランの特色です。彼らは、

その実現性を証明するために、野球やサッカー、バスケットボールなどの各競技大会を主催する学生連盟との放映権獲得交渉、各大学の放送研究部への撮影依頼を実際に行い、「緻密に練られた完成度の高いプラン」として評価を受けました。

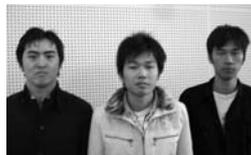
チームの代表を務めた細川皓司君は、受賞の喜びを次のように語ってくれました。「メンバーそれぞれが、渉外、会計、技術などの役割に責任を持って取り組み、気持ちを一つにしてこられたからこそこの結果だと思っています。メンバーとご指導いただいた岩井先生に心から感謝しています」



受賞メンバーと岩井教授
左から増田優太君、小山奈津紀さん、澤木一真君、岩井教授、高橋才将君、細川皓司君、石川友紀子さん

「大学生国際問題討論会 —フォーラム2008—」(外務省主催)にて、国際政治経済学部の学生チームが優秀賞(第2位)を獲得

久保 有志君(国際政治経済学部国際政治学科2年)写真中央
青木 麻名人君(国際政治経済学部国際政治学科2年)写真右
岩城 久平君(国際政治経済学部国際政治学科2年)写真左



「日本が関わる国際的な課題について大学生の理解を深める」ことを目的に、外務省が毎年開催している「大学生国際問題討論会 —フォーラム2008—」に、本学国際政治経済学部2年生の久保有志君、青木麻名人君、岩城久平君が参加し、応募30チーム中で準優勝にあたる「優秀賞」を獲得しました。

今年の論題は「日本政府は、国際平和協力のために、自衛隊の派遣を含む人的貢献を一層推進するための制度を整備すべきである。」でした。参加チームは、論題に基づく「肯定側立論書」を作成して応募。立論書の内容による書類選考を勝ち抜いた4チームで、準決勝、

決勝と“討論会”が開催されました。

討論会当日は、「思ったより緊張しませんでした」という岩城君の言葉に代表されるように、初めての他大学の学生相手の討論にも動じず、準決勝を突破。このままの勢いで決勝も…と思ったものの、決勝戦の相手は、昨年度も同大会8連覇を達成している聖心女子大学のゼミ代表チーム。「ディベート慣れしていて、正直“差”を感じました」(青木君)と、結果は惜しくも準優勝(優秀賞)となりました。それでも「まさかここまで来られるとは思っていなかったのうれしい」(久保君)というように、学部単位でもゼミ単位でもなく、自主的に参加した3人としては満足できる結果。審査員から「内容的には青学の方が面白かった」との声もあがるなど、十二分に自分たちの力を発揮できたようです。機会があれば、「来年度も挑戦してみたい」と、話す3人です。

男子バスケットボール部が、春、秋に続く学生3冠は惜しくも逃すも、全日本学生選手権大会で第3位を死守。

第60回全日本学生バスケットボール選手権大会の3位決定戦が、12月7日(日)に代々木第2体育館で開催され、本学男子バスケットボール部は77対55で専修大学に勝利し、第3位となりました。今期は、春の「第57回関東大学バスケットボール選手権大会」、秋の「第84回関東大学バスケットボールリーグ戦」でともに優勝を飾り、“学生3冠”をかけて臨んだ全日本学生選手権でしたが、準決勝で国士舘大学に80対92で敗退。惜しくも3冠達成はなりません。それでも今期の最終戦であり、また4年生にとっては学生生活最後の試合となる3位決定戦では、青学らしいプレーを連発し、見事に勝利。応援に駆けつけた多くの人たちの期待に応えてくれました。

今期の公式戦を終えたばかりの長谷川健志監督に今年のチームの総括、そして学生生活最後の試合を勝利で飾った4年生3人の思いを語ってもらいました。

長谷川 健志 監督

全日本学生選手権の準決勝では、国士舘大学に対して技術面よりも“闘争心”で負けていました。荒々しく、それこそ死ぬ気で向かってくる国士舘の選手たちに、うちのチームが圧されてしまった形です。とくに点差をつけられた第2ピリオドでは、一旦崩れたチームを立て直すために、明確なリーダーシップを取れる選手が今年のチームには足りませんでした。そんな、うちの弱さが表れたゲームだと感じています。

もともと今年の青学は、そんなに強いチームじゃなかったと考えています。強いから春も秋も勝てたのではなく、結果として勝ったから強いと評価されたのです。冷静に考えれば、春の関東選手権でも、2回戦の拓殖大学戦は1点差の勝利でした。そこで負けていればベスト32で終わっていたわけです。秋のリーグ戦でも、ほんのワンプレーの差で勝ち進んできた試合がいくつもありました。メディアも結果だけを見て「青学は強い」「3冠確実」と評価してくれましたが、それを見て「なんとなく俺たちは強い、勝てるだろう」と、確固たる自信ではなく、勝利に対するあいまの部分があったことは否めません。客観的に自分たちを評価し、もっと闘争心を持って試合に臨むことが必要だったはず。それが準決勝の結果につながったのだと思います。最後の3位決定戦では、得点差もつけて、控えも含めて全員がプレーできる青学らしいゲームができました。欲をいえば、せっかく応援

にきてくれているお客さんに、もっと魅せるプレーでアピールしてもらいたかったですね。ファンの多くは、青学のスピーディーな連続攻撃を楽しみに来てくれているわけですから。

来年に向けた新チームでの活動がスタートします。来年はもっと厳しい戦いになることは確実です。今年では全日本での優勝を目指したわけですから、もちろん3位に満足はしていません。選手たちも同じでしょう。今日の悔しさを絶対に忘れることなく、私自身も鬼になるくらいの覚悟を持って、来シーズンを戦うつもりです。

梅田 稔人 君・主将 (経営学部経営学科)

準決勝で負けて悔しくて、でも「このままでは終われない」と、選手全員が気持ちを切り替えて3位決定戦に臨みました。4年生にとっては最後の試合。ここでもう一度、「青学らしいプレーをして終わりたい」とだけ考えました。準決勝では、まったく自分たちのバスケットができませんでしたから。パスをスピーディーにつないでのリレーシュートなど、1年間の練習の成果が随所に出せて、少しは青学らしさを見せることができたと思います。正直、3位は悔しい結果ですが、最後の最後で選手全員の気持ちがまとまった試合ができたことは、本当によかったですね。

荒尾 岳 君 (国際政治経済学部国際経済学科)

国士舘戦は、決して油断していたわけではありませんが、今思うと、心のどこかに、ちょっとした隙があったのかもしれない。自分自身も反省の多い試合でした。ただ、その敗戦を引きずることなく、気持ちを一新して3位決定戦に臨み、勝って最後の試合を終われたことは満足です。4年間、ずっと応援してくださった方々に、心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

武田 光 君 (法学部法学科)

全日本で優勝できなかった悔しさと、4年間やり遂げてホッとした思いが入り交じっています。学生最後の試合でプレーでき、結果も勝利で飾れたことは良かったです。全日本の準決勝で敗れたのは、4年生の力が足りなかったせい。後輩たちには、自分が引っ張っていかんだ！という強い気持ちを持って、僕たちが果たせなかった“日本一”を実現してもらいたいと思います。



写真左から武田君、荒尾君、梅田君



海外・国内の大会で大活躍のフェンシング部 一柳 風未(いちやなぎ・ふみ)選手2008年を振り返る



文学部教育学科
一柳 風未さん

2008年、本学フェンシング部の一柳風未(いちやなぎ・ふみ)選手は、海外・国内の大会において数々の誇るべき結果を残しました。

4月7日(月)～15日(火)にイタリア・カタニーヤ市で開催された世界ジュニア・カデ選手権では、ジュニア・エベ部門で日本人最高の54位を獲得(20歳未満がジュニア部、15歳未満がカデ部)。10月24日(金)～30日(木)

に韓国・ヤング市で開催されたアジアジュニア・カデ選手権大会では、同部門で6位に入賞しました。その後に参加した国内の大会でも、全日本学生フェンシング選手権[11月12日(水)～16日(日)]・エベ部門で2位、全日本フェンシング選手権大会[12月11日(木)～14日(日)]・同部門でベスト16に入賞するなど、好成績を出しています。

国内外で大活躍している一柳選手に、2008年を振り返ってもらい、2009年の目標についてもお聞きしました。

——一柳選手にとって2度目の国際大会となったアジアジュニア・カデ選手権大会に出場した感想は?

4月にイタリアで世界大会を経験していた分、リラックスして試合

に臨めました。気負わず自分のフェンシングを貫けたことが結果につながったのだと思います。また、大会を通じて、韓国や香港の選手たちと親睦を深める機会をもてました。アジアのフェンシングは、本場ヨーロッパに比べまだまだ発展途上なので、一緒に盛り上げていきたいですね。

——全日本学生フェンシング選手権、全日本フェンシング選手権大会についてはいかがですか?

それぞれ結果には満足しているものの、依然としてある国内トップ選手とのレベル差を感じました。実力と経験を備えた選手は、技術だけでなく“駆け引き”にも長けているので、フェイントをいくら繰り出しても、なかなか誘いに乗ってくれません。次回の大会でさらに上位に入るためにも、今の私が得意とするカウンターを狙うスタイルだけでなく、自分から積極的に突きを仕掛ける攻撃的なスタイルも身につけたいと考えています。

——2009年はどんなシーズンにしたいですか?

チームとしては関東学生リーグ1部昇格、一選手としては世界大会でのさらなる上位入賞を目標に掲げています。これらを実現するためにも、一つひとつの練習を大切にしながら着実にレベルアップしたいですね。3年生になるので、後輩の指導にも力を入れたいと思います。

2008年度プロ野球・ドラフト会議で、 硬式野球部の高島 毅内野手がオリックス、 井上 雄介投手が楽天から指名を受けました

2008年10月30日(木)に行われたプロ野球・ドラフト会議において、硬式野球部の高島毅君(経済学部経済学科)がオリックスバファローズから4位指名、井上雄介君(文学部史学科)が東北楽天ゴールデンイーグルスから4位指名を受けました。両選手は、学内での記者会見において、喜びの声とともにプロ入り後の目標を語るなど決意表明。プロでの両選手の活躍にご期待ください。

——ドラフトで指名された率直な感想は?

高島 オリックスは地元大阪の球団。本当にうれしいです。

井上 指名していただき、ただうれしいの一言です。

——それぞれの球団のイメージは?

高島 関西を代表する球団ですし、チーム一丸で戦う印象を持っています。

井上 まだ歴史も新しく、これからどんどん強くなっていくチームだと感じています。

——尊敬するプロ野球選手はいますか?

高島 今年で引退された清原和博選手の大ファンです。オリックスに指名されたのも何かの縁ですし、機会があれば、ぜひお話ししてみたいと思います。



写真左から 井上君、高島君

井上 自分とはタイプは違いますが、大リーガーのノーラン・ライアン投手です。常に強気なピッチングを見習いたいです。

——自分のセールスポイントは?

高島 バッティングと堅実な守備です。

井上 カットボールとスライダーには自信があります。

——同じバ・リーグということで、お互いの対戦もあるかと思いますが?

高島 井上のことなので、きっと打たせてくれると思うので、しっかり打率を稼ぎたいと思います(笑)。

井上 対戦する前に、左(打ち)のピンチヒッターを出されないよう頑張れと言いたいです(笑)。

——プロ入りに向けての抱負を聞かせてください。

高島 1日でも早く一軍に上がり、1日でも長く現役で頑張れるようにしたいと思います。

井上 一軍で活躍するという強い意識を持って臨みたいです。チームの勝利に貢献したいと思います。

HAHONE

箱根駅伝

2009

箱根駅伝 (第85回東京箱根間往復大学駅伝競走)



33年ぶりの箱根路で 最後までつないだ“伝統のタスキ”。 ここに青山学院大学の 新しい第一歩が刻まれました。

総合順位 11時間29分00秒 22位

往路順位 5時間44分44秒 22位

復路順位 5時間44分16秒 17位

晴天に恵まれた2009年1月2日(金)午前8時、晴天できれいな富士山も望める芦ノ湖を目指し、第85回東京箱根間往復大学駅伝競走(往路)のスタートが切られました。青山学院大学陸上競技部の“伝統のタスキ”も33年ぶりに大手町をスタート。予選会最下位での出場でもあり、無欲でのチャレンジを掲げたレースに期待が集まりました。

1区荒井輔君、2区松野祐季君と力走したものの、3区へは最下位の23番目のタスキリレーとなった本学。3区の米澤類君が5つ順位を上げ、往路の勝負どころ4区、5区に希望が見えました。しかし、“箱根の山上り”の壁は厚く、4区先崎祐也君、5区佐々木徹也君ともにタイムは伸びず、結果的に往路は22位でゴール。トップとのタイム差も11分20秒となり、復路は一斉スタートとなりました。

なお、往路は、小田原中継所での4分58秒差を大逆転した東洋大学が初優勝を飾りました。

翌日の復路6区は、往路トップの東洋大学が午前8時ちょうどにスタート。本学は23位の城西大学とともに10分後に一斉スタートとなりました。

箱根路はやはり甘くなく、順位、タイムともになかなか伸ばすことはできません。それでも選手たちは必死でタスキをつなぎます。6区岡崎隼也君、7区大坪恭兵君と4年生がつないだタスキを8区の1年生小林剛寛君、9区の2年生辻本啓吏君が懸命の走りで見リレー。小林君が区間11位、辻本君が区間6位の成績で力走り、アンカーの宇野純也君に全てを託します。アンカーにタスキが渡った時点で総合順位は21位。しかし宇野君は順位以上に、33年前に実現できなかった10人がつないだタスキを確実に大手町のゴールまで届けるという大きな役割を担っての走りとなりました。

今年の箱根駅伝は、東洋大学が67回目の出場にして初優勝。その東洋大学から遅れること19分46秒。33年ぶりの出場となった青山学院大学は、11時間29分00秒のタイムで大手町のゴールテープを切りました。総合順位は下位に甘んじましたが、何よりも、33年前に成し遂げられなかった10区間最後までタスキをつなぎ、笑顔でゴールできたことによって、本学の新しい伝統が始まったと言えます。1年生、2年生の快走もありました。次年度以降にも大きな期待を抱かせるレースとなりました。



11時間29分00秒の総合22位。 厚かった“箱根路”の壁。それでも来季につながる力走を

33年ぶりの箱根路に挑んだ10名のランナーたち。その前には大きな“壁”が立ちはだかり、結果的には往路順位22位、復路順位17位、総合順位22位の成績でした。しかし、最初で最後となる箱根路を駆け抜けた4年生の力走、来季につながる1、2、3年生の激走、そして何より33年前に10区途中で途絶えたタスキを無事に最後までつなぎきったことが、新しい青学の伝統を築いていく第一歩となりました。

佐々木 徹也

5区 小田原～箱根 (23.4km)

1時間24分00秒 (区間19位)

往路最大の見所“山上り”5区に指名された佐々木君。19位でタスキを受けての順位アップが期待されましたが、前半からペースは上がらず、最も傾斜がきついと言われる14.2km地点の小涌園前では、3つ順位を落として22位で通過。さらに過酷なコースに前を行くランナーとのタイムを詰めることは難しく、結局そのままの順位でゴール。佐々木君は区間19位の成績。チームの往路成績は5時間44分44秒の22位。トップ東洋大学とは11分20秒差でした。

先崎 祐也

4区 平塚～小田原 (18.5km)

58分15秒 (区間21位)

4区は10区間で唯一の20km未満の距離。各校のスピード自慢に臨んだのが先崎キャプテンです。昨年度選抜のメンバーに選ばれながら故障で箱根路を走れなかった悔しさをはらすべく、気合十分で臨んだレースでしたが、中間地点まではスピードが上がらず、区間最下位のタイムの苦しい走り。その後も思うようにペースは上がらず、最終的にはチームの順位をひとつ落として19位で5区の佐々木君にタスキリレー。トップとの差も9分35秒に開きました。

米澤 類

3区 戸塚～平塚 (21.5km)

1時間04分52秒 (区間12位)

「感謝の気持ちを持って走りたい」と3区に臨んだ米澤君。最下位で受け取ったタスキですが、焦ることなく自分の走りに集中しました。途中14kmの地点では20位まで3つ順位を上げ、さらに前のランナーも視野に入れての走り。18km手前で18位となり、そのままの順位をキープして平塚中継所でキャプテンの先崎君に笑顔でタスキをリレー。米澤君は区間12位のタイムでチームの順位を5つ上げるとともに、トップとの差も6分41秒をキープする力走でした。

岡崎 隼也

6区 箱根～小田原 (20.8km)

1時間02分59秒 (区間23位)

午前8時スタートの東洋大学から10分遅れて一斉スタートした岡崎君。一斉スタートで自身の順位の位置づけを把握しづらいなか、必死で“山下り”を力走しました。練習では試走したものの、箱根の downhill に苦戦し、タイムは思うように伸びません。結局、個人記録では最下位のタイムでの走りとなり、チームも23番目で小田原中継所にタスキを届けることになりました。この段階で総合順位でも城西大学に抜かされ23位となりました。

大坪 恭兵

7区 小田原～平塚 (21.3km)

1時間07分34秒 (区間20位)

“山下り”に苦しんだ岡崎君から笑顔でタスキを受け取った大坪君。「後輩たちのために、来年のチームにつながる走りをしたい」と本番に臨みました。前を走るランナーとは約1分の差があるため、自分の走りに集中するしかない展開。最後までマイペースで走りぬぎ、区間20位のタイムで終わったものの確実にタスキを8区の1年生小林君に手渡しました。通過順位、総合順位ともに23番目が変わりませんでした。

小林 剛寛

8区 平塚～戸塚 (21.5km)

1時間07分56秒 (区間11位)

4年生の岡崎君から受け取ったタスキの重みを感じながら海岸線を疾走した1年生の小林君。その思いの表れか、前半から積極的なレースを展開します。6.9km地点の茅ヶ崎付近を区間6位の好タイムで通過。その後13.2km地点の藤沢付近も区間9位のタイムで快走します。勢いを最後までキープし、チームの順位も22位にひとつ上げ、最終的には区間11位の結果を残してタスキを辻本君にリレー。1年生としてチームで唯一箱根駅伝を走った経験は、来年以降に大きく生きてくるはずだ。



佐々木 徹也



岡崎 隼也



大坪 恭兵



先崎 祐也 提供: 浅井氏(校友)



小林 剛寛



1区 荒井 輔
(法学部3年)



2区 松野 祐季
(国際政治経済学部4年)



3区 米澤 類
(国際政治経済学部3年)



4区 先崎 祐也
(法学部4年)



5区 佐々木 徹也
(法学部4年)



6区 岡崎 隼也
(国際政治経済学部4年)

見せてくれました。



往路スタート読売新聞社前

荒井 輔

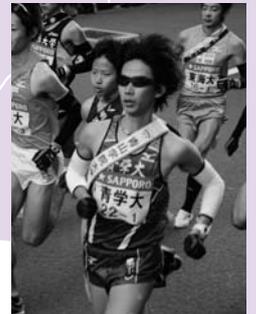
1区 大手町～鶴見 (21.4km)
1時間06分00秒 (区間21位)

選手たちが牽制し合い、最初の1kmに3分13秒を要するスローペースで始まった1区。その後もペースは大きく上がらず15km付近までは23人全員で集団を形成しながらのレースとなりました。終始集団の真ん中から後ろにかけて位置していた本学の荒井君は、15km手前で一時は先頭に並びかけるなど積極的な走りを展開。しかし、一気にペースアップした16km過ぎ、徐々に集団から遅れ始め、結局トップの早稲田大学から1分11秒差の21位で2区の松野君にタスキを託しました。

松野 祐季

2区 鶴見～戸塚 (23.2km)
1時間11分37秒 (区間22位)

各校のエースが集う2区を任されたのは松野君。タスキを受けてすぐ、後ろにいた日本大学ダニエル選手に交わされるもペースを乱されることなく、マイペースで平地の最長区間23.2kmに臨みました。原監督も「3区以降に向けて耐える区間」と位置づけていた通り、我慢の展開が続き、最終的には区間22位の走り。チームは23位の最下位に順位をふたつ落とし、戸塚中継所でタスキが3区の米澤君に渡りました。この時点でトップの山梨学院大学からは6分39秒の差でした。



荒井 輔

宇野 純也

10区 鶴見～大手町 (23.1km)
1時間13分42秒 (区間18位)

9人の汗が、そして多くの関係者の思いが染み込んだタスキが、無事にアンカーの宇野君に手渡されました。大きな期待を背負いひたすらゴールを目指して走る宇野君。最終的な総合順位はひとつ落として22位のフィニッシュながら、前を行くランナー3人を抜き去り18番目にゴールする力走を見せました。しかも約束通り、最後は笑顔でゴール。先崎キャプテンをはじめ、宇野君を待ち受けるチームメイトたちの笑顔も印象的でした。33年前の呪縛を解き放つ会心の走りでした。

辻本 啓吏

9区 戸塚～鶴見 (23.2km)
1時間12分05秒 (区間6位)

小林君からつなげられたタスキ。1年生の小林君とともに次代を担う2年生の辻本君は、チームのために、そして来年以降の自分自身のために走りました。14.7km地点の横浜駅前付近では区間10位のタイムで快走。一斉スタートだったので総合順位では負けているとはいえ、前を走る選手を交わして通過順位をひとつあげました。その後も



辻本 啓吏

快走は続き、最終的には区間6位の好成績で10区アンカーの宇野君にタスキを手渡しました。この時点で上武大学を抜き、通過順位とともに総合順位でも21位と順位をひとつアップ。次年度に大きな期待を抱かせてくれる辻本君の快走でした。



米澤 類



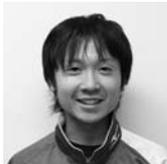
松野 祐季 提供:青山スポーツ



宇野 純也



7区 大坪 恭兵 (法学部4年)



8区 小林 剛寛 (社会情報学部1年)



9区 辻本 啓吏 (国際政治経済学部2年)



10区 宇野 純也 (法学部4年)

大きなご声援、本当にありがとうございました。



原 晋 監督

箱根駅伝を経験し、駅伝は「流れ」が大切だとつくづく感じました。誰かブレーキになる選手がいると、予想していた展開が崩れ、それが後を走る選手にも影響して悪循環に陥るのです。優勝候補と言われた駒澤大学がシード権さえ取れなかったことから、駅伝の「流れ」の怖さが分かります。また、故障を抱え、本調子ではなかった選手が通用するほど、甘くない世界であることも実感しました。選手起用の面では、監督として反省点も残りました。

しかし、選手たちは力一杯走ってくれました。毎日一緒に生活し、さまざまな悩みや苦勞に耐えながら練習を重ねてきた選手たちの晴れ姿を監督車から見ていると、本当に感慨深いものがありました。今回の経験によって、新チームは一段階高いステージに上げられるはず。大きな声援をいただいた皆さんのためにも、来年以降も箱根駅伝への出場を継続し、一歩ずつレベルアップを図りたいと思います。ご声援ありがとうございました。

HAHONE 箱根駅伝 2009



先崎 祐也 君

走っていて「青山学院大学」の幟が、一番多く目に付きました。声援の大きさに圧倒されたほどです。本当に多くの方々に支えられて、自分たちは箱根駅伝を走っていることを感じました。皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

自分自身の走りは満足できるものではなく、できることならもう一度走りたくて仕方ないのですが、実際に「箱根駅伝」を走って感じたことを、後輩たちにしっかりと伝承し、新チームの飛躍を期待したいと思います。



宇野 純也 君

先頭チームから20分離されることなく、前の9人がつないでくれた“青学のタスキ”を、無事に大手町まで届けることだけを考えて走りました。想像以上にすごい声援のなかを走れる選手は本当に幸せです。大きな声援に後押しされた結果、3人の選手を抜けたのだと思います。

実は、成績的には下位だったので、どういう表情でゴールすべきか走りながら悩んでいたんです。でもゴールの向こうで待つ先崎君たちの満面の笑顔が見え、自分も最高の笑顔でゴールしようと思いました。



読書教養講座 公開授業

井上 ひさし氏の講演会「作家の生き方」を開催



2008年10月25日(土)、作家井上ひさし氏を講師として招いた講演会が青学講堂にて開催されました。この講演会は、筆者が担当する日本文学特講「名作を読む／観る」の公開授業として、広く一般の方々にも開放されたもので、同時に読売新聞社が各大学と協力して開催している「読書教養講座」とも提携して実現しました。

講師を務めた井上ひさし氏は1934年山形県生まれ。『道元の冒険』(1970年)で岸田戯曲賞・芸術選奨新人賞を受賞し、『手鎖心中』(1972年)で第67回直木賞、『吉里吉里人』(1981年)で読売文学賞を受賞。以後、現在にいたるまで戯曲、小説に健筆

を振るい、奇想天外な趣向や笑い、語呂合わせで(現代の戯作者)と呼ばれ、近著に『ボローニヤ紀行』『ロマンス』などがあります。

講演のテーマとなった「作家の生き方」について、井上氏は長らく興味をいただいているという菊池寛の作品世界や、その生きる姿勢について話を進め、近年テレビドラマ化されて話題となった『真珠夫人』や『東京行進曲』『貞操問答』など、70年以上も前に書かれた菊池寛の通俗小説が、現在でもなお新鮮な「面白さ」を持っていること、また戯曲『父帰る』や『屋上の狂人』も現代に通用する深い主題を抱えていることなどを、ユーモアをまじえながら分かりやすくお話されました。

続いて後半は、資料として聴講者に配布された「菊池寛語録」を見ながら、井上氏と筆者との対談に移り、菊池寛がつねに大衆読者を目線に置いた作家であったこと、また作家的成功のあとは、若い才能の育英や作家の経済的な擁護などの社会的支援者として尽力し、その「遺伝子」ともいべきものが芥川・直木賞として現在に脈打っていることなどが話し合われました。

1時間余の授業は瞬間に過ぎ、1000名を超える聴講者の万雷の拍手をもって終了。「もっとお話を聞きたかった」「さっそく菊池寛の作品を読みます」といった声があちこちから聞かれました。

(文学部日本文学科 教授 片山 宏行 記)

大学院 国際マネジメント研究科主催

「青山MBA特別フォーラム—グローバル時代のキャリア形成とビジネススクール」を開催

大学院国際マネジメント研究科(青山ビジネススクール)は、2008年11月29日(土)に、「グローバル時代のキャリア形成とビジネススクール」をテーマに特別フォーラムを開催しました。企業経営者の特別講演と、MBAを取得したビジネスパーソンによるパネル・ディスカッションの2部構成。定員150名の事前予約も早々に満員となる程の大盛況となりました。

フォーラムの第1部は、株式会社資生堂代表取締役社長前田新造氏による特別講演「魅力ある人で組織を埋め尽くす」でした。前田社長は、2005年に代表取締役社長に就任後、「100%お客様志向」「ブランドの磨き直し」「魅力ある人で組織を埋め尽くす」の3つの目標を社内外に示して大規模な経営改革を次々と進め、



就任後3ヵ年で目標としていた営業利益率8%以上を達成し、売上・利益共に過去最高を達成しました。「ヒューマンサイエンス」と「おもてなしの心」を価値とし美しさと共に心の豊かさを重んじる資生堂の企業理念、ブランドの絞り込みとメガブランドの育成によるお客様志向のマーケティング改革、美意識を追求し「共有」という言葉で示される人材育成の姿勢と具体的な取り組みなど、前田社長の感動的な話に、会場から活発な質問が出されました。



株式会社 資生堂
代表取締役社長 前田新造氏

第2部は、同研究科の須田敏子教授司会のもと、日本オラル株式会社常務執行役員保々雅世氏、同研究科MBAコース修了生の株式会社東急百貨店伊藤正貴氏、同じくパナソニック株式会社奥田えり子氏、同研究科の北川哲雄教授の4名がパネリストとして登場。『戦略的キャリア・デザイン』をテーマに、各パネリストが自身のキャリアについて力強く語った後に、MBAの取得は転職に役立つか、日本と海外のビジネスパーソンの違いなど、会場からの質問に対して具体的な幅広いディスカッションが行われました。

(国際マネジメント研究科 教授 松浦 祥子 記)

記念シンポジウム「岡本太郎『明日の神話』招致と 渋谷・青山エリアの文化的成熟」を開催

2008年10月28日(火)、本学総合研究所ビル12階大会議室において、岡本太郎『明日の神話』招致記念シンポジウム「岡本太郎『明日の神話』招致と渋谷・青山エリアの文化的成熟」が本学総合文化政策学部、大学社会学連携研究センター(SACRE)、NPO明日の神話保全継承機構、岡本太郎記念現代芸術振興財団の主催のもと開催されました。『明日



の神話』は、岡本太郎が『太陽の塔』の製作と同時期の1968年から1969年頃にかけてメキシコで描いた、縦5.5m、横30mの巨大壁画。その後、行方不明となっていました。2003年にメキシコで偶然発

見。紆余曲折の末、最終的に東京・渋谷の「渋谷マークシティ」内に設置されることになり、2008年11月17日(月)から一般公開されています。

シンポジウムは、『明日の神話』を“応援”する方々による講演会やパネルディスカッションなどが開催され、岡本太郎作品の価値を来場者に強くアピールしました。また、『明日の神話』が渋谷で公開された後の保全等を担う組織「明日の神話保全継承機構」の設立も発表されました。これだけの超大作ですから、作品を守り、維持し続けることは大変なことです。本学では、学生有志によるイベントの企画・運営などの活動を通じて『明日の神話』に関わっていますが、地元渋谷・青山地区を代表する新しい“文化資産”の誕生をぜひ多くの学院関係者の方々にも祝っていただければと思います。

(総合文化政策学部総合文化政策学科 教授 井口 典夫 記)

フェルハーヘンオランダ外務大臣講演会開催

日本とオランダが外交関係を樹立して今年が150周年にあたるのを記念して、オランダの外務大臣マキシム・フェルハーヘン(Maxime Verhagen)氏が初来日され、本学、本学国際交流共同研究センター、およびオランダ大使館の主催で、同氏の「人権と平和と安全—高まる国際協力の必要性—日本とオランダの役割」と題する講演会が10月27日(月)ガウチャー記念礼拝堂で開催されました。フェルハーヘン氏は欧州議会のメンバーをつとめたほか、ACP-EU合同議会の副委員長を歴任されるなど、とくに外交関係に明るく、今年2月に外務大臣に就任されています。

日本政府関係者や各国の要人、ヨーロッパ各国の外交官を始めとして約300名が出席しました。フェルハーヘン氏は講演のなかで「オランダも日本もグローバル化の恩恵を受けてきた国であり、両国がいっそう協力するべき理由がある」と述べられました。さらに、



「日本は国連PKO活動に参加しており、またイラクでは日本の自衛隊とオランダ軍とが、同地の平和と安定のために協力した実績を分かち合っている。世界の安定は、ある特定の勢力の利益追求のためであるという

よりも、国際利益なのである。それゆえ、21世紀のさまざまな挑戦に対して、オランダと日本を含む国際社会は、コモングッドのためにともに協力しなければならない」と述べられ、きわめて体系だった講演を締めくくられました。講演のあと、会場の出席者との間で質疑応答があり、平和構築などについての活発な質問と、外務大臣からの丁寧なお答えがありました。フェルハーヘン氏の講演のテーマである平和、人権、そして安全といった課題こそ青山学院が教育の課題としてきたものであり、その意味でも本学で話していただくのに相応しい講演となりました。

(副学長 土山 實男 記)

法学部創立50周年記念行事 「アジア太平洋における雇用問題とILOの役割」

10月24日(金)総研ビル11階第19会議室にて、ILO(国際労働機関)アジア太平洋総局長の山本幸子氏を招聘し、「アジア太平洋における



雇用問題とILOの役割」というテーマで、ご講演をいただきました。講演では、アジアで生じている雇用問題の現実、アジアにおけるディーセントワーク(働きがいのあ

る人間らしい仕事)の実現のためのILOの諸活動、グリーンジョブ、ベターファクトリー等の最先端の取り組みの紹介等がなされました。この講演は、今年度、法学研究科で開講している「ILO連携講義」の一環でもあります。同講義は、ILO(国際労働機関)駐日事務所のご協力を得て、ジュネーブ、バンコクで活躍されているILOの方々、テレビ会議で講義をいただいているものです。院生・学生たちと、児童労働、ジェンダー、安全衛生、社会保障、危機対応等の具体的な活動をテーマとして学んでいます。法学部では、現在、このような講演・講義、AOYAMA LAW海外セミナー、中国との積極的な研究教育交流のように、大学レベルではできないような、学部独自の国際的な研究教育交流活動を推進しています。今後ともご注目いただければ幸いです。

(法学部法学科 教授 藤川 久昭 記)

経営学部主催国際シンポジウム「新しいマーケティングを求めて —日本とイタリアとのしあわせな出会い—」開催報告

去る11月18日(火)総研ビル12階大会議室にて、マーケティング学科創設記念シンポジウムが開催されました。第1部では、経営学部小林保彦が基調講演「イタリア文化と次世代マーケティング」を、エドアルド・



T・ブリオスキ聖心カトリック大学教授が「グローバル・マーケティングとイタリアマーケティング」を、ロッセーラ・C・ガンベッティ准教授が「地中海マーケティングとグローバル・マーケティング研究」を、ベネトンジャパン広報宣伝部統括部長渡辺教子氏が「日本におけるベネトンブランドのPR理念とその実行」を行いました。第2部ではパネル討論、「マーケティングと経営の統合はいかに進めるか—マーケティングが経営の美学であるために—」を、経営学部三村優美子教授、芳賀康浩准教授、ベネトンジャパン渡辺教子部長と小林で実施。イタリア発の価値創造のマーケティング問題提起を行いました。学内外から研究者、実務家、大学院生、学部生など約200名の参加者があり、パネル討論の問題提起に耳を傾け、充実した4時間のシンポジウムでした。

(経営学部 教授 小林 保彦 記)

総合文化政策学部主催「センシング・シティーズ／ 感応する都市 2008:東京⇄ロンドン」

10月31日(金)から11月3日(月)まで、総合文化政策学部(SCCS)の主催による「センシング・シティーズ／感応する都市 2008:東京⇄ロンドン」が行われました。ロンドン大学・ロンドン芸術大学との国際共同プロジェクトです(助成:Daiwa Anglo-Japanese Foundation/公認:UK-Japan 2008・JAPAN-UK150)。

SCCSの学生が青山・渋谷エリアでフィールドワークを行い、最終日にその成果を青学講堂で発表。短期間での作業にもかかわらず完成度が高く、学外からお招きしたクリティックの先生方にも好評でした。イベントマネジメントやテクニカルサポートもSCCSの学生が担当し、抜群のチームワークを示しました。

同時に公開連続講演会「イブニングレクチャーシリーズ」も開催され、会場の間島記念館には多くの聴衆が詰めかけました。

2009年3月にはロンドンでPART2が行われる予定です。

(総合文化政策学部総合文化政策学科 准教授 竹内 孝宏 記)



大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース開設記念連続シンポジウム3 「育成担当者の『気づき』と『育ち』—“大人の学び”って何だろう」

12月5日(金)、東京・渋谷のこどもの城においてシンポジウム「育成担当者の『気づき』と『育ち』—“大人の学び”って何だろう」が開催されました。「『ケアリング』と『学び』の交差点」「ワークショップデザイン



の楽しみ」と続いた連続シンポジウムの最終回となる今回は、東京大学准教授の中原淳氏をファシリテーターにお迎えし、150名の参加者のみなさんとともに、「大人の学び」について頭と体を使って考えるワークショップを行いました。

本学社会情報学部苧宿俊文教授(写真)らが開発したハッピー型コミュニケーションツール「ビタハビ」(2008年度グッドデザイン賞受賞)を使った自己紹介セッションからスタートしたワークショップは、付箋を使って「大人の学び」と「子どもの学び」を比較するグループワーク、LEGOブロックを使って「自分の学び」のストーリーを表現するアクティビティへと展開していきました。参加者の方々も積極的にアクティビティに参加していただき、大変に盛り上がったワークショップとなりました。

(社会情報学部社会情報学科 教授 高木 光太郎 記)

2009年度学事暦（学部）

※大学院生は掲示板等を参照してください。

前期

4月1日(水)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断 (10日(金)まで) ※詳細は、「学年初頭行事」の冊子等で確認してください。
4月4日(土)	入学式(学部・大学院)
4月11日(土)	前期授業開始
4月13日(月)	新入生歓迎礼拝(18日(土)まで)(相模原)
4月14日(火)	新入生歓迎礼拝(第二部)
4月20日(月)	履修登録最終日(青山屋間部)
4月21日(火)	履修登録最終日(相模原、第二部)
4月29日(水)	昭和の日は授業実施日
5月25日(月)	前期チャペル・ウィーク(30日(土)まで) ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝(相模原、青山屋間部)
6月1日(月)	ペンテコステ礼拝(相模原、青山屋間部)
6月2日(火)	ペンテコステ礼拝(第二部)
6月20日(土)	アドバイザー・グループ・デー(全キャンパス休講)
7月16日(木)	補講日(17日(金)まで)(相模原、青山屋間部、第二部)
7月18日(土)	補講日(22日(水)まで)(第二部のみ) 前期定期試験期間(31日(金)まで)
8月1日(土)	夏期休業期間(9月20日(日)まで)
8月3日(月)	清里サマー・カレッジ(8月5日(水)まで)
9月26日(土)	9月学部・大学院学位授与式

後期

9月24日(木)	後期授業開始
10月10日(土)	相模原祭(11日(日)まで)(10日(土)は相模原キャンパスのみ休講)
10月12日(月)	体育の日は授業実施日
10月19日(月)	後期チャペル・ウィーク(24日(土)まで)
10月30日(金)	青山祭(11月3日(火)まで)(全キャンパス休講)
11月14日(土)	第二部オータム・カレッジ(15日(日)まで)
11月16日(月)	創立記念日は授業実施日 創立記念礼拝(相模原、青山屋間部)
11月17日(火)	創立記念礼拝(第二部)
11月27日(金)	クリスマス・ツリー点火祭
12月15日(火)	クリスマス礼拝(青山屋間部・第二部合同)
12月17日(木)	クリスマス礼拝(相模原) 月曜日の授業実施(振替)
12月24日(木)	冬期休業期間(1月6日(水)まで)
1月7日(木)	後期授業再開
1月14日(木)	補講日(16日(土)まで)(相模原、青山屋間部、第二部)
1月15日(金)	大学入試センター試験準備日(青山キャンパスのみ休講)
1月16日(土)	大学入試センター試験(17日(日)まで)
1月20日(水)	補講日(23日(土)まで)(第二部のみ) 後期定期試験期間(2月2日(火)まで)
3月27日(土)	卒業礼拝、学部・大学院学位授与式

2009年度学年初頭行事についてのお知らせ

年度初頭には、各学部・学科ごとに書類配布、履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。

日時、場所等の詳細は、青山・相模原両キャンパス所属学生とも学生ポータル(1月中旬以降)・学部等掲示板(1月中旬以降青山キャンパスのみ)あるいは大学ウェブサイト(3月中旬以降に掲載)で確認してください。次号のAGUニュース No.46でも日時、場所等をお知らせいたします。

進路・就職関係行事のお知らせ

青山キャンパス

行事	対象学年	日程	備考
業界企業研究セミナー	学部3年生 院1年生	2/2(月)~2/6(金)	学生ホール 教室

☆2/9~2/20の期間は、入学試験による入構制限があるため、ウェスレーホール1階で相談業務のみを行います。

相模原キャンパス

(理工学部生・理工学研究科生・社会情報学研究科生対象)

行事	対象学年	日程	備考
個別企業説明会	学部3年生 院1年生	2月下旬	詳細は掲示板等を参照

※追加、変更等もありますので、詳細は必ず学生ポータル・掲示板にて確認してください。

また、就職の相談は随時受け付けていますので、来室し申し出てください。

卒業・修了の決まったみなさんへ 卒業・修了後の進路の報告について

学長 伊藤 定良 / 就職部長 仁科 貞文

青山学院大学では、みなさんに修学後の進路を報告していただいています。就職、進学、現職の継続、留学、各種試験受験準備などの報告を、卒業・修了の決定した学部4年生と修士課程修了生全員に提出していただきます。

報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の名前や就職先が学外に公表されることは決してありません。また、官公庁などへの統計資料としても必要となりますので、必ず報告してください。

民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「就職活動報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せて提出をお願いいたします。

みなさんのこれからの活躍を、ここからお祈りいたします。

進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)

……………進路・就職センターへ「進路届」を提出

Web Ashで入力

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科)

……………学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出

Web Ashで入力

※人文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙を提出していただきます。

2008年度 ペアレンツウィークエンド実施状況報告

本学では、「大学後援会」の事業活動の一環として、在学生の保護者の皆様に対し、大学の近況をお知らせするとともに、学業成績、学生生活、進路、就職活動等の現況について全体的な説明と個別面談を行う懇談会を開催しています。これは保護者の皆様と大学との密接な関係を図ることを目的として始められた事業です。今年度より、従来の「父母懇談会」を「ペアレンツウィークエンド」と名称変更し、装いも新たに開催しました。

①**首都圏**……東京、埼玉、千葉、神奈川の各都県在住1～3年生の保護者の皆様を対象に、人文・社会科学系の各学部は青山キャンパス、理工学部・社会情報学部は相模原キャンパスにおいて実施しました。ペアレンツウィークエンドを通して、大学に足を運んでいただき、週末を楽しんでいただきたいとの気持ちから、本年度より1年生の保護者の皆様にも加わっていただきました。全体説明会では、大学の近況や学生の成績、就職に関して説明をし、引き続き個別面談をしました。成績、就職に関する相談はもちろんのこと、留学についての質問が多くありました。また、本年度は新たに、ティータイムを企画し、教員との懇談の場として、また保護者の皆様同士、交流を深めていただける場を設けました。その他、学生による弦楽四重奏曲の演奏や、本学法学部の教員による無料法律相談コーナーの設置など、ペアレンツウィークエンドならではの企画を組むことができました。

②**地区**……首都圏以外の、全国各道府県在住1～4年生の保護者の皆様を対象とし、全国19ヶ所の都市で実施しました。今年度の開催都市は別表のとおりです。

地区では、大学代表者の挨拶および大学近況の報告をし、引き続き各担当者から学業成績、就職、学生生活について説明しました。札幌会場、金沢会場では、大学代表者とともに出身の教員も同行しました。今後も、より多くの教員と交流を深める場を提供したいと思っております。

引き続き開かれた昼食会は、大学関係者と懇談をする場となりました。校友の方々にご参加いただいた会場では、地元での卒業生の活躍など、心強いお話を聞くことができました。

ペアレンツウィークエンドを通して、より多くの保護者の方々にキャンパスを訪れていただきたいと思っております。遠方のため、キャンパスに来られない方のための地方開催においても、毎年、開催地区の見直しをし、またいただいたご意見をもとに、工夫を凝らした内容を企画する予定です。

地区 全道府県在住、全学部1～4年生の保護者の方対象

対象道府県	開催都市	開催日	会場
北海道	札幌市	8月9日(土)	ホテルオークラ札幌
	函館市	8月10日(日)	ロフジールホテル函館
岩手県	盛岡市	9月7日(日)	ホテルメトロポリタン盛岡
山形県	山形市	9月6日(土)	山形国際ホテル
茨城県	水戸市	8月31日(日)	三の丸ホテル
長野県	松本市	9月14日(日)	松本東急イン
新潟県	新潟市	8月23日(土)	新潟グランドホテル
石川県	金沢市	8月30日(土)	ANAクラウンプラザホテル金沢
静岡県	浜松市	8月3日(日)	オークラアクティビティホテル浜松
愛知県	名古屋	7月19日(土)	キャッスルプラザ
大阪府	大阪市	8月3日(日)	ホテルグランヴィア大阪
広島県	広島市	8月2日(土)	ホテルグランヴィア広島
島根県	松江市	7月13日(日)	松江東急イン
愛媛県	松山市	7月19日(土)	松山全日空ホテル
高知県	高知市	8月24日(日)	三翠園
福岡県	福岡市	8月10日(日)	ホテルニューオータニ博多
佐賀県	佐賀市	8月9日(土)	ホテルニューオータニ佐賀
大分県	大分市	7月27日(日)	大分全日空ホテルオアシスタワー
鹿児島県	鹿児島市	7月6日(日)	鹿児島東急ホテル

首都圏 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県在住1～3年生の保護者の方対象

学部	開催日	会場
文学部、文学部第二部	6月21日(土)	青山キャンパス
経済学部、経済学部第二部	6月14日(土)	
法学部	6月21日(土)	
経営学部、経営学部第二部	6月28日(土)	
国際政治経済学部	6月14日(土)	
総合文化政策学部	6月28日(土)	
理工学部	10月11日(土)	相模原キャンパス
社会情報学部	10月11日(土)	



▲全体説明会(福岡会場)



▲学生による弦楽四重奏曲の演奏

Club & Circle Information

問い合わせ先
〒150-8366 青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。下記大会、演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2009年1月～2月)

アイススケート部(ホッケー部門)
第81回日本学生氷上競技選手権(1月)
アイススケート部(フィギュア部門)
第81回日本学生氷上競技選手権・
冬期関東学生フリースケーティング大会(1月)
硬式庭球部 関東学生選抜テニストーナメント大会・
関東学生新進テニス選手権大会(予選)(2月)
自動車部 新人ジムカーナ大会(2月)
水泳部 冬季東京都記録会(2月)
スキー部 全日本学生選手権大会・全日本学生チャンピオン大会(1月)
国民体育大会冬期大会・全日本選手権(2月)
漕艇部 マシンローイング大会(2月)
卓球部(男子) 全日本卓球選手権大会(1月)
卓球部(女子) 全日本卓球選手権大会(1月)
バスケットボール部(男子) 第84回全日本総合バスケットボール選手権(1月)
フェンシング部 JOC(ジュニアオリンピックカップ)(1月)
洋弓部 インドア選手権大会(1月)

陸上競技部 第85回東京箱根間往復大学駅伝競走大会(1月)
レスリング部 テーブシュルツ国際大会(2月)
吹奏楽バトントワリング部
東京都大学吹奏楽連盟アンサンブルコンテスト(1月)
関東バトントワリングコンテスト(2月)
グリーンハーモニー合唱団 フェアウェルコンサート2009(2月)

主要活動報告(2008年10月～11月)

居合道部 第41回東日本学生居合道大会 準優勝
空手道部 関東学生空手道選手権 女子団体形 準優勝
関東学生空手道選手権 男子団体形 3位
少林寺拳法部 少林寺拳法全国大会男子運用法の部 大宮単人 優秀賞
少林寺拳法全国大会女子運用法の部 梶田夏子 優秀賞
バスケットボール部(男子) 第84回関東大学バスケットボールリーグ戦1部リーグ 優勝
陸上競技部(長距離ブロック) 箱根駅伝予選会(本戦出場決定) 13位
レスリング部 全日本大学グレコローマン選手権 84キロ級 尾曲伸乃祐 優勝

2008年度 青山学院学術褒賞 受賞者決定

文学部日本文学科 小川 靖彦 教授
『萬葉学史の研究』

文学部心理学科 入不二 基義 教授
『時間と絶対と相対と—
運命論から何を読み取るべきか』

理工学部情報テクノロジー学科
原田 実 教授
日本語意味解析技術の開発とその有用性の実証研究

青山スタンダード テーマ別科目

言葉の技能

アメリカ合衆国の社会と文化B

「変動するアメリカ」



堀 真理子
経済学部 教授

私が担当する「アメリカ合衆国の社会と文化B」の授業では、今日のアメリカ社会の変化に敏感に反応しながら、アメリカ社会の成り立ちや政治機構、文化などを多角的に分析しています。2008年度後期の授業では、アメリカ大統領選挙に関する新聞記事やテレビニュースがほぼ毎日報道されたので、時々刻々と変化するニュースの内容を追いつつながら、アメリカの過去の歴史と現在の環境、アメリカ社会が抱える問題点について受講生とともに考えてみました。

今回黒人のオバマ氏が勝利した大統領選はこれまでの選挙以上にアメリカ国民の考え方が問われました。アメリカでは、これまでの大統領は白人男性で、その若さや強さが期待されてきました。ところが今回、共和党に代わって政権を執ることが期待された民主党内で争われた候補は、黒人男性と白人女性でした。この二人で競い合った末に最終候補に残ったのは黒人男性です。他方、共和党が選んだ最終候補者は白人男性であるものの高齢者であり、しかも副大統領候補に選んだのは白人女性です。いわば黒人、高齢者、女性という社会的弱者とされていた人びとが正副大統領候補として選出されたわけです。

これは今までにない大きな変化です。1960



年代のキング牧師たちの公民権運動から半世紀を経たいま、法律的には人種差別はなくなり、フェミニズム運動の影響で公けに性差別を口にする人は少なくなりました。しかし、偏見や差別がなくなったわけではありません。

私が2000年に短期の在外研究で過ごしたプリンストン大学のある町は、大学を囲むように立ち並ぶ高級住宅街には白人居住者が、その先には黒人居住者や中南米からの移民の住む地域が広がっています。東部のリベラルな人びとが集まる町ですらこのような人種による住み分けがあるのですから、保守的な南部ではさらに大きな亀裂が存在します。今夏、私が訪れた黒人野球やジャズの中心地で有名なカンザスシティでは、ちょうど全米から黒人キリ

スト教会の信者が集まって大々的なパレードが行われていましたが、パレードの参加者に対して見物人は少なく、それも黒人ばかりでした。ところが、パレードが行われていた通りから一步入ったところにあるシャレたレストラン街を覗くと、なんと大勢の白人たちが我関せずと

悠々と食事をしているではありませんか。白人の黒人に対するこの無関心さは異様でした。田舎町とはいえ、洗練された料理が提供されるこの場所は、山盛りの唐揚げとフライドポテトがドーンと運ばれてくる黒人街の食堂とは明らかに違い、その貧富の差にも驚かされました。

授業ではアメリカ社会に根の深い人種問題やそれに付随する社会問題を考察しながら、同時に人種や民族の多様性から生まれた大衆文化にも触れていきます。毎年受講者の人数が多いので、受講者との対話を実現するために、毎回、授業の中で扱う問題や主題に関連する事柄についてアンケートやクイズを通して意見や疑問点を書いてもらい、それを授業に反映させるように努めています。



大学・大学院学費納付について (大学院の学費納付の期限等については大学院要覧を参照してください。)

問い合わせ先:財務部本部資金グループ 03-3409-6479(直通)

〈学部生〉

1. 学費振込依頼書発送・納付期限等について

- (1) 前期振込依頼書発送予定 4月上旬【納付期限4月下旬】
後期振込依頼書発送予定 9月上旬【納付期限9月下旬】
- (2) 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(申し出のあった場合は学生宛)に送付いたします。
- (3) 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料が無料です。その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業協同組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。
※ご注意 自動振込機(ATM)による振込はしないでください。
(学生番号、学生氏名の確認ができないため。)

2. 下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- (1) 住所変更(保証人・本人)
→ 学生部厚生課(青山)・学生生活グループ(相模原)
- (2) 学費の延納・分納を希望する場合
→ 学生部学生課(青山)・学生生活グループ(相模原)
- (3) 休学・退学を希望する場合
→ 昼間部(3・4年)および第二部は学務部教務課(青山)
→ 昼間部(1・2年、理工学部全学年)は学務グループ(相模原)
- (4) 学費振込依頼書を紛失した場合
→ 財務部本部資金グループ 03-3409-6479(直通)
青山キャンパス(学生部学生課(学部生) 03-3409-7835(ダイヤルイン)
相模原キャンパス(学務グループ 042-759-6003(ダイヤルイン)
相模原キャンパス(学生生活グループ 042-759-6004(ダイヤルイン))

3. 編入学・転部・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

4. 4年次で留年した学生の学費振込依頼書発送については、前期は5月中旬【納付期限6月上旬】です。後期は10月中旬【納付期限11月中旬】になります。
5. 年間学費を一括して納付することもできます。
(4年次再修業者を除く)
希望される場合は学生部学生課・学生生活グループに申し出てください。
6. 教育ローンについて
本学では銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細については、AGUニュース第46号(4～5月号)に掲載いたします。

2009年度 大学学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学部・学科	2008年度入学生		2007年度入学生		2006年度入学生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
昼間部	教育学科	568,500		557,500		557,500
	英米文学科	567,700		556,700		556,700
	フランス文学科	569,000		558,000		558,000
	日本文学科	568,500		557,500		557,500
	史学科	569,500		558,500		558,500
	心理学科	600,500	391,500	589,500	391,500	589,500
	経済学部	579,500		558,500		558,500
	法学部	580,500		569,500		569,500
	経営学部	579,500		568,500		568,500
	国際政治経済学部	590,500		579,500		579,500
	総合文化政策学部	590,500				
	理工学部	870,500	565,500	853,500	565,500	853,500
社会情報学部	733,500	478,500				
第二部(夜間部)	教育学科	325,000	246,000	321,000		321,000
	英米文学科	324,200		320,200	246,000	320,200
	経済学部			322,000		322,000
	経営学部			322,000		322,000

転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除く。

※金融機関の窓口で、10万円を超える現金での振込みを行う場合には、本人確認書類の提示が必要です。手続きを行う方の本人確認書類(運転免許証、健康保険証、パスポートなど)が必要です。なお、預貯金口座を通じて振込みを行う場合には、上記手続きは不要です。但し、口座開設時に本人確認手続きが済んでいない場合には、窓口で本人確認書類の提示が必要となることがあります。

参考 金融庁ホームページ <http://www.fsa.go.jp/policy/honninkakunin/>

2009年度 大学院学費一覧表(入学年度別)

単位:円

研究科・専攻	2008年度入学生		2007年度入学生	
	前期	後期	前期	後期
文学(教育) 博前・博後	323,500		323,500	
文学(英米) 博前・博後	322,700		322,700	
文学(フランス文) 博前・博後	324,000		324,000	
文学(日本文) 博前・博後	323,500		323,500	
文学(史) 博前・博後	324,500	257,500	324,500	257,500
文学(心理) 博前・博後	361,500		361,500	
経済学 博前・博後	324,500		324,500	
法学(ビジネス法務を除く) 博前・博後	325,500		325,500	
法学(ビジネス法務) 修士2年制・博後	415,500		415,500	
法学(ビジネス法務) 修士3年制	338,000	180,000	338,000	180,000
経営学 博前・博後	340,500		340,500	
国際政治経済学 修士・博後	465,500	257,500	465,500	257,500
総合文化政策学 眞性博士	365,500			
国際マネジメント 一貫制博士	465,500	257,500	465,500	257,500
理工学博前	560,000		560,000	
理工学博後	590,000	373,000	590,000	373,000
社会情報学	498,000	315,000		
国際マネジメント 専門職2年制	656,000	378,000	656,000	378,000
国際マネジメント 専門職3年制	546,000	268,000	546,000	268,000
法務専門職	708,000	500,000	708,000	500,000
会計プロフェッション 専門職	807,000	600,000	807,000	600,000
会計プロフェッション 博後	394,500	257,500	394,500	257,500

博前は博士前期課程、博後は博士後期課程
※留年・3年次編入学は除く

News Index

2008.10~12

2008年10月から12月までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

08年10月

- 理工学部長谷川美貴研究グループが第1回Spring-8萌芽的研究アワード優秀賞を受賞!
- 外務省主催「大学生国際問題討論会—フォーラム2008—」にて、国際政治経済学部2年有志チームが『優秀賞』に入賞
- 陸上競技部33年ぶりに箱根駅伝への出場が決定! 第85回箱根駅伝予選会を通過しました
- 男子バスケットボール部が第84回関東大学バスケットボールリーグ戦 1部リーグで優勝
- 「平成20年度(第7回)学生起業家選手権」にて、国際政治経済学部岩井千明ゼミのチームが優秀賞に選出されました

- 河宿俊文 社会情報学部教授が2008年度グッドデザイン賞を受賞
- 理工学部化学・生命科学科 阿部二朗准教授らの研究成果が有機合成化学の専門学術誌SYNFACTSの「SYNFACT of the month」に選定されました
- 文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」に選定されました

08年11月

- 2010(平成22)年度大学入試センター試験利用入学試験新規利用学部・学科について
- 理工学研究科機能物質創成コースの岡部隆志さんが日本電子材料技術協会の優秀賞を受賞しました!
- 「青山学院スタイル2008」で社会情報学部での学びと課外活動を紹介
- 岡本太郎「明日の神話」が公開されました
- 一般入試試験・大学入試センター試験利用入学試験要項(願書)の販売について
- フェンシング部—柳風未さん アジア ジュニア・カデフェンシング選手権大会で個人ベスト6位、団体3位に入賞、全日本学生選手権大会で準優勝!

08年12月

- EMCジャパンと青山学院、教育機関で国内最大規模「次世代の学校経営に向けたICT戦略の取り組み」を発表しました
- 女子バレーボール部が平成20年度第55回全日本バレーボール大学選手権大会で優勝
- 理工学部化学・生命科学科 重里有三研究室のメンバーがアメリカ物質科学会でベストポスター講演賞を受賞しました
- 理工学部電気電子工学科 井出英人教授が電子情報通信学会よりフェローの称号を贈呈されました
- 理工学部経営システム工学科 松本俊之准教授が「eco japan cup 2008」でエココミュニケーション審査員応援賞を受賞しました
- 「箱根応援ロード」に応援団、吹奏楽(バンド)ワリグ部、チャアリーディング部による応援動画がアップされました
- 文学部心理学科 仁科貞文教授が2008年度日本広告学会賞を授賞しました

春期休業中の窓口案内

対象期間 2/4~3/31

詳細は各掲示板をご覧ください。

部 署	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
教 務 課	2/23~3/31	月~金	9:00~19:00(11:30~12:30は窓口停止)	2/5~2/21は窓口停止 3/2~3/10は科目履修生時間割開講のため 11:30~12:30も開室します 4/1より平常通り
		土	9:00~19:00(11:30~14:00は窓口停止)	
教 職 課 程 課	3/10~3/31	月~土	9:00~16:00 (11:30~12:30は窓口停止,土は11:30まで)	3/10は19:00まで 4/1より平常通り
学 生 部	2/23~3/31	月~金	9:00~19:00(15:00~16:00は窓口停止)	2/4~2/21,3/25は窓口停止 4/1より平常通り
		土	9:00~19:00(11:30~16:00は窓口停止)	
進 路 ・ 就 職 セ ン タ ー	2/4~2/6	月~土	9:00~16:00 (月・水・金は19:00まで,土は12:00まで)	窓口停止時間(月~金)16:00~17:00 資料室は月・水・金19:00,火・木17:00, 土13:00まで利用できます
	2/23~3/31			
図 書 館	2/23~3/31	月~土	9:00~16:00	ウェスレー・ホール1階で相談業務のみ行います 貸出期限を厳守してください。休館中の本の返却は正面入館のブックポストに入れてください
大 学 院 事 務 室	3/10~3/31	月~金	9:00~18:30(15:00~16:00は窓口停止)	2/4~3/9は入学試験業務のため窓口停止
		土	9:00~13:00(11:30~12:30は窓口停止)	
専 門 職 大 学 院 事 務 室	2/4~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ13:00まで)	窓口停止時間11:30~12:30
広 報 入 試 セ ン タ ー	2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	
情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー	2/4~3/31	月~土	9:00~19:00 (入学試験日は9:00~17:00)	システム更新のため、施設およびネットワーク 利用停止期間があります ※パソコン/書籍室は左記と異なりますのでWeb-掲示板参照のこと
国 際 交 流 セ ン タ ー	3/2~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで)	2/4~2/28は窓口停止
外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー	3/2~3/31	月~金	9:00~17:00	2/4~2/28は窓口停止 ※施設開室日は、左記と異なりますのでWeb- 掲示板参照のこと
学 生 相 談 セ ン タ ー	2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ11:30まで)	火金の夜間開室は4/11より 昼休み11:30~12:30
保 健 管 理 セ ン タ ー	2/4~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで)	昼休み11:30~12:30 4/11より平常通り
宗 教 セ ン タ ー	2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	4/11より平常通り

2月7日(土)~2月21日(土)の期間は、2009年度入学試験のため青山キャンパスへの入構が制限されます。
上記期間に入構の場合は警備室に用件を告げ許可を得た上で、西門または東門から入構してください。

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
学 生 支 援 ユ ニ ッ ト	スチューデントセンター	2/23~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで) 窓口停止時間11:30~12:30	2/4~2/21,3/25(学位授与式)、4/4 (入学式)は窓口停止 4/1より平常通り ※2/4,16,17は追試験業務のみ窓口事務を 行います
	学 務 グ ル ー プ ※				
	進 路 グ ル ー プ				
	国 際 交 流 グ ル ー プ				
	学 生 生 活 グ ル ー プ				
	健康管理グループ(保健管理センター事務室)				
	健康管理グループ(学生相談センター事務室)				
教 育 ・ 学 習 支 援 ユ ニ ッ ト	授 業 支 援 グ ル ー プ	2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	システム更新のため、施設およびネットワーク 利用停止期間があります 3/4~3/6蔵書点検のため閉館 4/11より平常通り
	情 報 教 育 支 援 グ ル ー プ (情報科学研究センター)				
	図 書 グ ル ー プ (図 書 館)				
	メディアライブラリーグループ (外国語ラボラトリー事務室)				
研 究 支 援 ユ ニ ッ ト	研 究 支 援 グ ル ー プ	2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	
企 画 ・ 渉 外 グ ル ー プ					
庶 務 グ ル ー プ					
施 設 ユ ニ ッ ト	施 設 グ ル ー プ				
財 務 部 大 学 相 模 原 経 理 グ ル ー プ		2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	現金取り扱い16:00(土のみ11:00)まで
宗 教 セ ン タ ー		2/4~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	4/11より平常通り

成績の通知について

2008年度卒業決定者および在学生への成績通知は、2009年3月10日より学内情報端末または学内設置パソコンによってのみ行います。この情報は、学生証による認証を受けた場合に限り提供されます(単位制以外の大学院博士後期課程を除く)。

また、上記成績通知開示日に、卒業決定者以外の学生の保証人住所宛に「2008年度成績通知書」を発送します(大学院を除く)。卒業決定者の「成績通知書」は、学位授与式当日、学生本人に配付されます。

2008年度学位授与式・卒業礼拝

2008年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、下記のとおり「学位授与式」が挙行されます。これに先立ち、3月25日(水)10:00~11:00にガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)において、卒業礼拝が挙行されます。

	学部	大学院
期日	3月25日(水)	3月25日(水)
時間	13:00~	16:00~
場所	青山学院記念館(青山キャンパス)	ガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)

卒業・進級に関するお知らせ

対 象	日 程	時 間	方 法
卒業・修了決定者発表			
昼間部	3/10(火)	10:30	学生ポータル
第二部(夜間部)			
理工学研究科			
大学院 (除理工学研究科)			研究科により発表日が異なるので大学院事務室または 専門職大学院事務室で確認してください
卒業見込決定者発表(理工学部のみ)			
理工学部	3/10(火)	10:30	学生ポータル
進級決定者発表			
相模原キャンパス在学生 (除理工学部)	3/10(火)	10:30	学生ポータル
第二部2年生			

※電話による問い合わせには一切応じておりません。

※卒業・修了生は、必ず2月28日(土)までに借りている図書を図書館へ返却してください。返却されない場合は、学位記をお渡しできません。

※卒業の決まった学生は全員、卒業後の進路報告をする必要があります。
青山キャンパスの学生は進路・就職センターに「進路届」を、
相模原キャンパスの学生は学生支援ユニット進路グループに
「進路先届」を提出してください。

21世紀の総合学園創造のために、 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」へのご協力をお願いします。



常務理事・募金事業局長 竹石 爾(ちかし)

青山学院は今年、創立135周年を迎えます。現在、皆様のご協力とご厚情を仰ぎながら、2006年11月に青山学院の教育方針とスクール・モットーを基盤とする21世紀のあるべき姿を想定した「アカデミック・グランドデザイン」を策定し、そのもとで「青山キャンパス再開発」および「青山学院スカラシップ制度(冠奨学金)の充実」に取り組んでいます。

「青山キャンパス再開発」では初等部、会計専門職大学院棟が完成し、現在工事が進行中の高等部では、2010年から新校舎への移転が始まります。そして、これから大学棟の新築工事が始まります。歴史と伝統の継承と緑の保存に留意しつつ再開発される青山キャンパスには、人文・社会科学系7学部が集約され、学部1年から4年まで同じキャンパスで一貫して学ぶことになります。これにより、教育・研究効果はもとより、就職活動やクラブ・サークル活動において、より一層先輩・後輩の交流が深まるものと期待されます。最新の技術で建築される学舎は、災害や防犯の面でも安全・安心度が格段に高まり、万が一の場合には近隣

地域社会の避難拠点として機能します。一方、相模原キャンパスは理工学部、社会情報学部を中心に自然科学、文理融合系の拠点として、学習・研究に取り組む態勢が一層整備され、新学部の創設も検討されています。

給付型奨学金の「青山学院スカラシップ」の充実は、「キリスト教信仰にもとづく教育」という建学の精神を実践するひとつのかたちです。学業への高い志を持ちながら、さまざまな事情で困難な状況にある学生を支援し、社会に送り出すことは、皆様のあたたかいご支援のもとで学院が取り組むべき使命であると考えています。これまで奨学金を受けた卒業生からは、感謝の気持ちを伝えるメッセージがたくさん届いております。

2004年11月の創設以来、大きなご支援をいただいていた「青山学院 EVERGREEN 21 募金」ですが、募金期間も2009年の年末までとなりました。日頃より本学院の教育活動に深いご理解とご協力をいただいております皆様に、さらにご協賛をお願いしますのは恐縮ではございます。しかしながら、青山学院が、伝統と歴史を踏まえううえで、21世紀に大きな存在感を示す総合学園として発展し、学生、父母、卒業生が誇れる母校となるために募金の趣旨にご賛同いただき、より一層のあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募 金 名 称	「青山学院 EVERGREEN 21 募金」
募 金 期 間	2004年11月1日～2009年12月31日
募 金 目 標 額	50億円(個人20億円、法人30億円)
募金対象事業	<p>〔青山キャンパス再開発〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史と文化、伝統ある青山学院らしさを重んじた魅力ある都市型キャンパスの再構築を目指します。 初等部校舎および周辺環境整備(完成) 会計専門職大学院棟(完成) 高等部校舎、講堂、体育館建設および周辺環境整備(着工) 引き続き、青山キャンパス再開発方針に基づき、大学、女子短期大学、中等部、幼稚園の校舎群について、再開発整備を順次進行 <p>〔在学生支援体制の充実〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●給付型奨学金「青山学院スカラシップ制度」の充実を図り、学生が安心して学業に専念できる体制を作ります。 ●幼稚園・初等部・高中部・女子短期大学・大学・大学院にわたる一貫教育 少人数教育の導入 学生、生徒、児童の海外留学の推進 留学生受け入れの推進 就職、キャリア、資格取得の支援強化など
募 金 の 種 類	<ul style="list-style-type: none"> ●個人 個人 でご協力をくださる場合には、次の2つのコースがあります。 ・スタンダードコース：一口5万円(複数口のご支援をいただければ幸いです) ・フリーコース：一口の金額に関わらず、可能な金額を可能な時期にご支援いただくコースです。 *いずれのコースも分割方式でのご寄付も承っております。 ●法人 一口 の金額は、定めておりません。分割形式でのご寄付も承っております。 ●団体 金額 に関わらず、すべてフリーコースとさせていただきます。 各種 グループ(同期会、クラス会、私的な会合等)でのご支援をお願いいたします。なお、分割形式でのご寄付も承っております。
申込・払込方法	本学所定の振込用紙に必要事項をご記入の上、郵便局・ゆうちょ銀行または銀行よりお振込ください。ATMでのお振込はご遠慮ください。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ●ご寄付いただいた場合、税制上の優遇措置もごございます。詳細は募金事務局へお問い合わせください。 ●個人情報の保護に基づき、払込取扱票にご記入いただいた情報は「青山学院 EVERGREEN 21 募金」事業に関わる業務以外には、一切利用いたしません。なお、住所データの確認や更新等の作業を伴う場合は、管轄部署(交友センター、各同窓会)に提供しております。

お問い合わせ

学校法人青山学院募金事務局 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL:03-3409-6208 FAX:03-3409-3890 e-mail:bokin@jm.aoyama.ac.jp

不法薬物の恐ろしさの再認識を徹底

昨今、大学生による大麻等の不法薬物に関係した報道が、マスコミ等を通じて多く見られます。発覚した他大学学生のコメントに「興味本位」といった言葉が多く並ぶことから、学生が容易に不法薬物入手できる環境が実際に存在することが想像できます。本学学生においては、このような不法行為は報告されておりませんが、学生たちに学長からのコメントの提示、掲示物などを通して、不法薬物の所持、使用、売買、栽培等の犯罪行為に決して関わることのないよう厳重に注意を喚起。その一方で、万一の発覚時には、厳しい処分をもって対処する方針です。

大麻等不法薬物に関する本学の対応について

マスコミ等で報道されていますように、大麻等の薬物に関しては想像以上に蔓延しており、他大学の学生等による大麻の栽培・使用・所持・売買・譲渡といった事件が頻発しております。このような事態を重く受け止め、本学としても学生に対して、掲示等によって興味本位の安易な気持ちから軽率な行動を取ることがないように注意すると同時に、万が一、不法薬物の所持等が発覚した場合には、退学を含む厳しい処分がなされる旨を伝えております。

学生本人の強い意志に関わる問題ではありますが、容易に不法薬物入手できる悪環境から学生たちを守るためには、大学と、そしてご家庭とが連携を取りながら対処していくことが必要です。ご家庭におかれましても、折に触れて不法薬物の危険性を喚起していただきますよう、よろしくお願いいたします。

青山学院大学 学長 伊藤 定良



アドバイザー・グループ紹介 19

目玉企画は、海外でのホームステイ合宿 <リーディー アド・グル>



理工学部 准教授
Reedy, David Watkins

リーディーアド・グルでは、英語を話すことが好き、留学に興味がある、異文化交流がしたいという学生が集まり、ディスカッションやゲーム、スポーツを通して留学生との交流を深めています。そして毎年恒例の“海外でのホームステイ合宿”が目玉企画。1年生でホームステイ合宿に参加したことをきっかけに、2年生や3年生になって交換留学生として留学を経験する学生が増えているんです。とてもうれしく感じています。

まだスタートして数年ですが、卒業生がミーティングに参加してくれるなど、年齢や学部の枠を超えた交流が広がってきました。“プロアクティブに行動をとる”が、リーディーアド・グルのテーマなので、学生たちには、いつかチャンスが来たとき、自分自身の頭と体を使ってそのチャンスを勝ち取れるよう、日頃からさまざまな経験を積み重ねてもらいたいと思います。



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取ください。

事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→学生生活グループ